

「米山月間」によせて

米山記念奨学委員会委員長
山田 直樹



日頃は多くのロータリアンの皆様に米山記念奨学基金をご理解いただき、多くの寄付を頂くと共に、事業の実施にも多くのご協力をいただいています。このことに感謝申し上げます。

現在の奨学基金及び奨学制度もこの10年間で随分と変化してきました。女性の奨学生が増えてきましたし、奨学生の国別分布でも圧倒的にアジアの学生が増えています。イスラム圏の奨学生も増えています。2760地区は皆様のご協力のおかげで毎年多くの奨学生採用枠を頂くことが出来ており、その分各クラブに世話クラブをお願いする機会がふえております。ほとんどの奨学生が期間中世話クラブになじみ交流ができ、カウンセラーを中心により良い人間関係が出来上がって、人間として一回り大きく成長していると感じられています。また預かっていたいるクラブに置かれましてもその奨学生より様々な出身国の情報を得てより深い友好関係に発展させている例をたくさんみることができています。1年を通じて奨学生のみならず世話クラブの米山記念奨学委員長やカウンセラーの皆様に参加していただく事業も多いので、時間の調整等にもご苦勞いただいているのではないかと思います。なるべく効率よくむだのないように運営していこうと思います。ご協力の程お願いいたします。これから奨学生達はWFFや地区大会、秋の研修旅行、12月のクリスマス会と続く事業に参加することによって、飛躍的にロータリーに馴染んでいきますし理解を深めていくと思います。またカウンセラーの皆さんとは10月18日にカウンセラー研修会を開催しますので、一同に会して日頃の悩み事をお互いに発表して解決に導き、より深い理解に繋げたいと思っています。

私たち地区米山記念奨学委員会は1月に面接試験を行い、採用が決定した後は指定校大学との打ち合わせ、世話クラブのお願いなど裏方に徹してまいります。あくまで主役は奨学生と世話クラブのみなさんです。まだ一度も世話クラブを経験されていないクラブの皆様には、是非積極的に手を挙げていただいて、その醍醐味を味わっていただきたいと思います。